

尊厳の10の要素

ドナ・ヒックス,2021,『尊厳のリーダーシップ』,晶文社より



人と接するとき相手を自分よりも上、または下に見ない。その人が他者から受けるマイナスな評価を恐れずに自分を素直に表現する自由を与える。偏見やバイアスを持たずに接し、相手のアイデンティティの大切な一部として人種、宗教、ジェンダー、階級、性的指向、年齢、障害、容姿を認めて受け入れる。



人の能力、努力、配慮、支援などを評価する。褒め惜しみせず、人の貢献やアイデアに対して感謝と評価を惜しまない。



本気で相手に関心に向け、耳を傾け、理解しようと努め、正当と認め、またその人の経験してきたことや関心事に注目する。



あらゆるレベルの関係性（家族、コミュニティー、組織、国）において、人がその交わりの一員であるを実感できるようにする。



二つのレベルで人に安心を与える。身体的レベルにおいて体の安全を感じることができるように、そして、精神的レベルにおいて辱めを受ける心配から解放されるようにする。報復を恐れずに自己表現ができる場を作る。



人を公平に扱い、公に認められたルールや法律に従って平等に扱う。



相手が自らのために行動し決断することで、未来に可能性と希望を感じるよう励ます。



相手の考えが大事であると信じて受け止める。相手に自らの考え方を述べることや自分の視点を説明する機会を与える。理解するために積極的に耳を傾ける。



信頼性のあるものとして相手に接する。相手の善良な動機と誠実さを前提に接する。



自らの行動に対して責任を取る。相手の尊厳を侵害した場合は謝る。害を与える行動を改める姿勢を示す。